

香港の民主化運動について

- アイン・ランドのMan's Rightの文脈における道徳的社会論 -

Those who advocate laissez-faire capitalism are the only advocates of man's rights.
自由放任資本主義を擁護する者だけが、人間の権利の擁護者である。

告知文

「香港の民主化運動について - アイン・ランドのMan's Rightにおける道徳的社会論 -」開催のお知らせ

テーマ：アイン・ランドのエッセイ『Man's Right』の文脈に沿った香港問題の共有とディスカッション

日時：2021年6月19日（土）18:00- 20:00

場所：LARKにて開催

参加費：無料（会員のみ）

アイン・ランドはそのエッセイ『Man's Right』の中で、個人を神秘的または社会的な何らかの上位の権威に従属させる利他主義-集産主義の教義に基づく伝統的な社会を非道徳的社会とし、近代に登場した個人の生得的な権利を認める社会を道徳的社会と定義します。そして、「自由放任資本主義（laissez-faire capitalism）を擁護する者だけが、人間の権利の擁護者である。」と言い切ります。

この文脈ではファラオを神としたエジプトの神権政治、アテネの無制限多数決または民主主義、ローマ皇帝が運営する福祉国家、中世後期の宗教裁判、フランスの絶対王政、ビスマルクによるプロイセンの福祉国家、ナチスドイツのガス室、ソビエト連邦の大量殺戮は、いずれも非道徳的社会と位置付けられます。個人の権利に立脚した歴史上初めての道徳的社会は、アメリカ合衆国と述べます。

今回は自由放任資本主義社会の代表格の一つであった香港に焦点をあて、特に2010年以降の環境変化、「犯罪者」の中国への引き渡しや立法院議員の選挙、中国の国家安全法などをめぐる最近のデモや政府の弾圧について、その概要や講師の考える要点を共有します。また、香港という自由放任資本主義社会のこれまでとこれからについて、冒頭で述べたアイン・ランドの『Man's Right』の文脈でディスカッションを行います。

講師：内藤明宏（ARCJメンバー）

参加者は、①②はそれほど時間もかかりませんので事前に目を通してください。③の書籍は時間のある方のみで問題ありません。

① デモはなぜ起きた？中国にある自由都市「香港」の歴史をわかりやすく解説（短時間でよくまとまったクイック・インプットに最適な動画です。）

<https://www.youtube.com/watch?v=x6ToDKjLM54&t=155s>

② LARKにて共有した『Man's Right』

③ 『香港とは何か』野嶋剛 ちくま新書 2020年

ARCJでは、毎月1回程度の定例会を開催しています。

正会員、賛助会員はどなたでも参加できます。

お問い合わせはこちら

<https://aynrandjapan.org/about/>

アイン・ランドのいう道徳的社会と非道徳的社会

	非道徳的社会	道徳的社会
道徳律	社会（の支配者）が道徳律の上に立ち、個人に利他主義-集産主義を課す	個人の権利を保護する道徳を社会に課す
個人と社会との関係	社会が目的であり、個人はそのために犠牲となる	個人が目的であり、社会は平和的で秩序があり、個々人が自発的に共存するための手段
歴史上の実例	古代エジプトの神権政治、アテネの無制限多数決または民主主義、ローマ皇帝の福祉国家、中世後期の宗教裁判、フランスの絶対王政、プロイセンの福祉国家、ナチスドイツ、ソビエト連邦、等	アメリカ合衆国以後の自由放任資本主義社会

次の四つの特性を持つ国は、間違いなく独裁国と判定できます。その四つの特性とは、「一党独裁」「裁判なし、または模擬裁判での政治犯の処刑」「私有財産の国有化、あるいは収用」そして「検閲」です。これらの非道を犯す国は、道徳的な特権も、国家の権利や主権を主張する正当性を放棄し、無法者になります。

『SELFISHNESS(セルフイッシュネス) —— 自分の価値を実現する』 P.194

香港問題パート

2010年頃～2020年を中心に

デモ、民主化運動を考える前に ー香港の概要ー

イギリス統治下の香港はレッセフェールの資本主義社会だが、香港市民に参政権はなかった。
レッセフェールらしく経済成長率が乱高下したり信用危機も起きたが、大体において社会は順調に発展。

GDP(自国通貨名目)とその成長率の推移

[兆][Hong Kong Dollar]

3.5

3

2.5

2

1.5

1

1970

1972

1974

1976

1978

1980

1982

1984

1986

1988

1990

1992

1994

1996

1998

2000

2002

2004

2006

2008

2010

2012

2014

2016

2018

[%]

35

30

25

20

15

10

5

0

-5

-10

積極的不介入主義



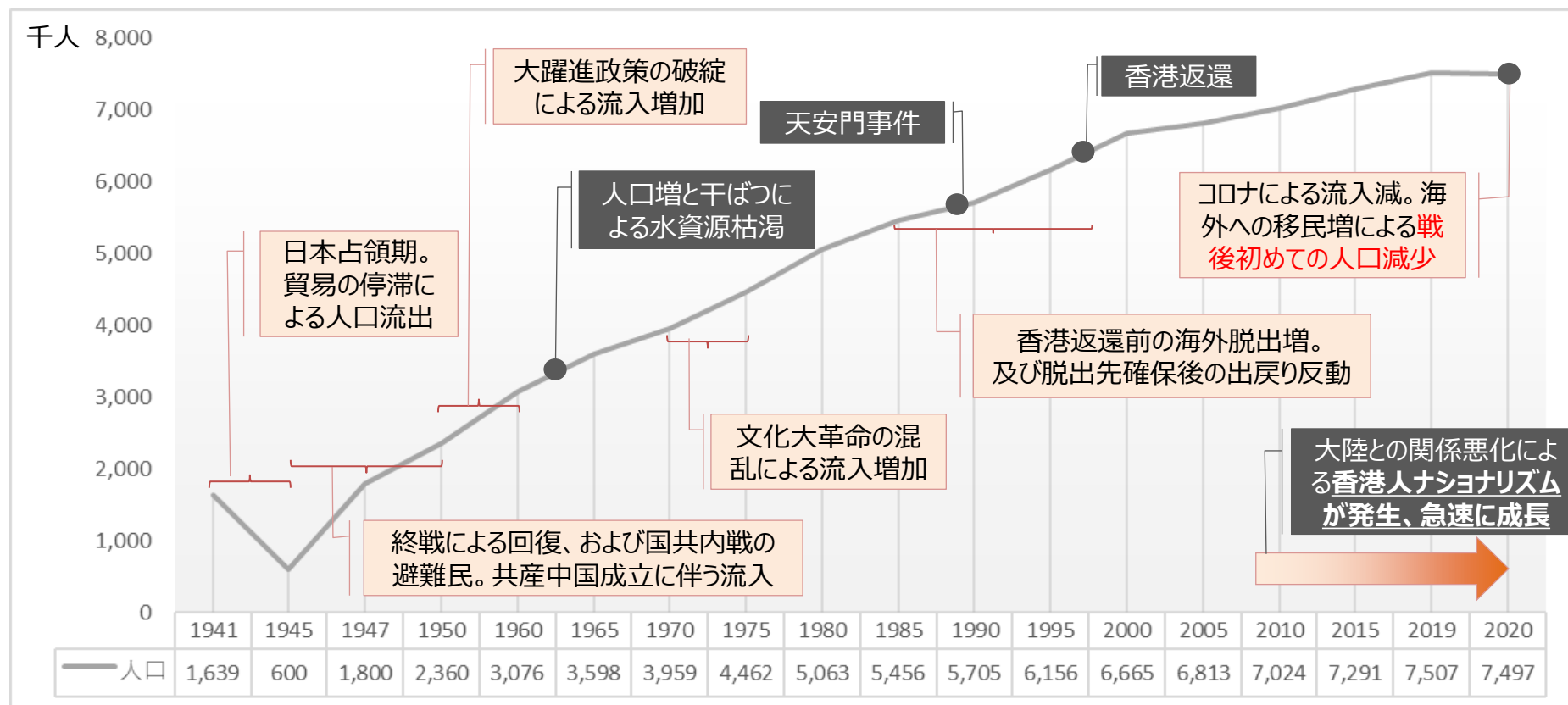
ハドンケイヴ財政長官



広東省から香港へ水を供給するパイプライン。
香港は生活用水の60%を大陸からの給水に依存している。

第二次大戦後の香港のあゆみ ―人口動態―

香港の人口動態は大陸での混乱と関係値が最大の変数となり、急速な人口拡大を経験した。多くの期間において、大陸出身者（第一世代）が香港人口の40%近くを占めてきた。



※公開データより発表者作成。

1941-1950間の変動の大きさを表現するためデータ間隔が5年でない。

2020は2019との比較のため1年間隔で掲載している点に留意。

2014年香港デモ（雨傘革命）のサマリー

次期香港行政長官の普通選挙導入が否定されたことや、愛国教育導入案への反発から発生。約3か月のデモや占拠活動の後、民主化（普通選挙）要求は通らず、一旦は収束に向かう。

「真の普通選挙」導入と「愛国教育カリキュラム」撤回を要求



黄之鋒(ジョシュア・ウオン)、林朗彦(アイヴァン・ラム)、周庭(アグネス・チョウ)等の若いリーダーがデモを率いた。



...

仰せのままに



香港行政長官 梁振英

行政長官候補は親中派しか立候補させない



中国全人代常務委員会

- ・「愛国教育カリキュラム」は取り下げ
- ・「普通選挙導入」は完全否定

2019-2020年香港デモのサマリー

逃亡犯条例改正により、香港市民が中国政府に身柄を拘束されるという恐怖から反対デモが勃発。一国二制度の限界が明らかになり香港の自由が失われた。香港返還に次ぐ戦後最大級の事件

- ✓ 逃亡犯条例改正案の全面撤回
- ✓ (警察の暴力について)独立した調査委員会
- ✓ 林鄭行政長官辞任と普通選挙の実施
- ✓ デモ参加者の逮捕撤回
- ✓ デモの「暴動」認定の撤回



2014年を大きく上回る200万人デモ。若い世代を中心にリーダーはあえて不在とする戦略を採り、匿名通信アプリで連携、**5大要求**を突き付けた。



香港警察はデモ隊に強硬に対応し、一気に悪役に。



大量の催涙ガスやゴム弾を使用。白バイで引き逃げ。至近距離から実弾を撃ち高校生を重体にする。マフィアと見られる白シャツ集団による暴行黙認等。

逃亡犯条例を改正し、中国にも犯罪者を引き渡す。



林鄭月娥(キャリー・ラム)
行政長官

- ・逃亡犯条例改正案は廃案となるも、「国家安全法」が新たに成立。
→政治犯を大陸で裁く機能があり、2021年5月時点で百名以上の民主派が逮捕され、香港の自由は終焉。
- ・普通選挙、調査委員会等の他項目も受け入れられず。
- ・中学生向けの歴史教育カリキュラムに「愛国、国家安全保障教育」を追加。洗脳教育を近く開始。

政治犯弾圧の代表例

特に国家安全法の成立以降、知的な活動能力を持つ民主派の政治犯が多数弾圧されている。



黎智英(ジミー・ライ)氏: 蘋果日報(アップル・デイリー、りんご日報)の創業者

- 香港地裁が2021年4月16日に禁固1年3か月判決。
- 裸一貫で起業し成功した実業家。中国共産党がもっとも敵視する民主化支援者の1人。

※りんご日報・・・香港や台湾で広く流通するタブロイド紙。
センセーショナルな記事が多いが、たまに中国政治の大スクープをつかんできて報道することがある。



林榮基(りんえいき)氏: 「銅鑼灣書店」(香港)の経営者

- 2015年10月から12月に、香港で中国の禁書を発行したという理由で中国に拘束。
- 香港市民は、逃亡犯条例改正案が引き起こす中国政府による恣意的な拘束の具体例と見なした。

祝 2020年4月、脱出先の台湾で資金を集め、台北市内で銅鑼湾書店を再開。

※銅鑼湾書店・・・中国の発禁本を広く扱う（これ自体は珍しくない）香港の書店。
企画力にも優れ、販売だけでなく出版も手掛けていた。



黄之鋒(ジョシュア・ウオン)、林朗彦(アイヴァン・ラム)、周庭(アグネス・チョウ)

- 2014年の雨傘革命でリーダー的ポジションを務めた人々。
- 3名は2019年デモのリーダーではないが、見せしめ的に収監され、それぞれ10－13か月の禁固刑を受けている。

なぜ動乱が起きたのか？ 動乱後の影響と動きは？

香港社会は動乱を通じて様々な影響と余波で揺さぶられ、社会が大きく変質してきた。

なぜ動乱が起きたのか？

✓ 世代交代と中国への反発により香港人アイデンティティが生じた。

→イギリス統治時代、香港人は政治に関心がないことで定評があったが、新世代は異なっていた。

→中国政府が民主化の約束を破ったと感じられ、香港の将来に深刻な不安を覚えた。

動乱後の影響と動きは？

✓ 世代の分断が起きている。

→中国への親近感を持つ親世代と、反発しか感じない若年世代には意識の分断がある。

✓ 社会の分断が起きている。

→この数十年で醸成された正義感ある香港警察のイメージは失墜。市民との信頼関係は壊滅的。

→金儲けにだけ関心がある香港人と、政治的権利を諦められない香港人はもう分かり合えない。

✓ 海外移民、財産移転が進んでいる。

→イギリス等への移民が進んでいる。特にイギリスは、「国家安全法」成立を受け、香港市民の約7割、540万人にイギリス移住の特別申請資格を付与。

2021年2－4月の3か月で、香港→イギリスへの特別移住ビザ申請が34,300人に。

→BoAの試算では2021年度だけで4兆円以上が香港から海外へ流出する見込み。

ディスカッション①

レッセフェールの代表格たる香港社会はアイン・ランドのいう道徳的社会でした。

STEP 1

- ・香港へ行ったことある方は、行った時のイメージを思い起こしてください。

STEP 2

- ・レッセフェールでなくなる香港はどのように変わるとおもいますか？

ディスカッション②

香港の教訓は、台湾や日本など周辺諸国にどのような影響を与えるでしょうか？